

照葉樹林だより

66
No.
2024 1.10



クイタダキ 板木林道、展望ポイントにて撮影 (2017年11月:平田奈巳)
頭に菊の花のような黄色い羽毛があることから「菊戴」という名がついたという。冬の渡り鳥で松林に良く来るので、マツメジロとも呼ばれている。

照葉樹林の生物多様性と文化 … 2-5p
一夏緑樹林との比較のなかで一

綾の照葉樹林プロジェクト事業報告について …… 6-7 p
お知らせ・事務局だより …… 8p

発行：一般社団法人 てるはの森の会
〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島2-9-6 みやざきNPOハウス403号
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289
E-mail: teruha@miyazaki-catv.ne.jp ホームページ: <http://www.teruhanomori.jp> (フェイスブックも発信中!)

「綾の照葉樹林プロジェクト」は、日本最大級の面積を誇る綾の照葉樹林の保護・復元を目指す、官民協働のプロジェクトです

湯本 貴和(きょうと生物多様性センター長
京都大学名誉教授)

照葉樹林と夏緑樹林

1960年代のおわりに上山春平、中尾佐助、佐々木高明らによって提唱された照葉樹林帯文化論は、日本の生活文化の基盤をなす要素の多くが中国雲南省・ネパール・ブータンを中心とする東亜半月弧にその起源を求めることができ、そこには照葉樹林帯とよばれる常緑広葉樹林という共通の自然環境がベースにあるとしたものでした(上山編1969、上山ら1976、中尾1966、佐々木1971など)。照葉樹林帯文化を特徴づけるのは、根栽類の水さらし利用、陸稲栽培、モチ食、麴酒、納豆やなれずし・魚醤などの発酵食品、鶉飼、漆器、絹、茶などの生業や食文化に加えて、歌垣や入れ墨などの民俗だとされました

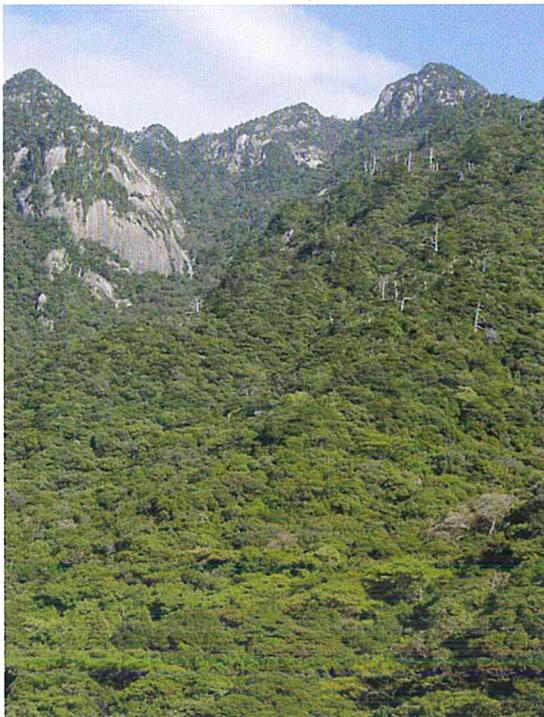


写真1 屋久島の照葉樹林
常緑広葉樹の森林で山菜やキノコに乏しい

いっぽう、東北日本を代表する夏緑樹林についても、落葉広葉樹林という自然環境をベースとするブナ帯文化ともいえる別系統の基層文化があります。そこでは、ブナやミズナラなどの堅果、山菜・キノコ利用、あるいはクマやカモシカなどのほ乳類の狩猟などで特徴づけることができ、ブナ・ナラ帯として朝鮮半島やロシア沿海州という地理的な広がりをもつだけではなく、日本の縄文文化にも深く関わっているとされています(市川1984)。

これらは、現在の潜在植生として日本列島を二分する西南日本の照葉樹林帯と、東北日本の夏緑樹林帯の自然環境とそこに生きてきた人間の生業や文化を整理したわかりやすい論考でした。この論考で注目すべきは、夏緑樹林帯文化が森林を維持したままで得られる「自然の恵み」に大きく依存する文化であるのに対して、照葉樹林帯文化では焼畑耕作などの栽培作物を中心とした文化である点です。照葉樹林帯文化には、なれずし・魚醤のような、雨季と乾季の違いが著しい熱帯モンスーン帯の水田耕作と水田漁労に由来すると考えられる文化まで含まれています(石毛・ラドル1990)。人為が加わらない自然のままにさまざまな恩恵が得られる夏緑樹林帯文化と、利用には人間の積極的な自然改変が伴う照葉樹林帯文化の対比は顕著で、照葉樹林は人間にとってそのままでは住みにくい場所です。現在の潜在植生と同じ縄文時代において、定住狩猟採集民である縄文人の推定された人口密度は、東北日本のほうが西南日本にくらべて格段に高かったとされていることも、このことを裏付けています(小山1984)。



写真2 長野・秋山郷の落葉広葉樹林

山菜とキノコの乏しい照葉樹林

東北地方や甲信越地方で驚くのは、人々が山菜採りやキノコ狩りにかける情熱のすごさです。土日、休日にはじつに多くの人々が、山菜やキノコを求めて森林に入ります。それに比べると、照葉樹林帯の人々の山菜やキノコに対する姿勢は冷淡といってもよいほどです。この現象は単に人々の文化や嗜好の問題だけではなく、夏緑樹林と照葉樹林のもつ生物群集としての性質に起因していると考えています。

亜熱帯から冷温帯上部までの垂直分布のなかで、照葉樹林帯に集落がある屋久島でも、食用にする植物の種類は非常に少なく、タケノコ類、クサギの新芽、ツワブキなどの常緑樹以外のものを利用するにすぎません(湯本1994)。照葉樹林で山菜が得られにくいのは、常緑樹が動物の被食に対して強力に防衛をしているからです。常緑樹は物理的あるいは化学的に葉を防衛することによって、落葉樹よりも寿命の長い葉をつけています。このことが常緑樹の葉を、たとえ新葉でも人間の食料として用いることを著しく困難にしています。この防衛に対処するためには、茶葉の利用のように、しばしば発酵をとまなう加工が必要となります。

また、食用キノコの利用が少ないのは、低緯度に向かうにつれて、菌類の種多様性が増大し、多数の近縁種のなかで食か毒かの区別がつかなくなることに関係していると考えています。もともとキノコには同定の手掛りになる特徴が少ないのです。被子植物では、食か毒かは、属あるいは科で大きく決まっていますが、キノコでは近縁種内でも食用になる種と有毒の種が混在するという、人間にとって厄介な性質をもっています。そのために、誤って毒キノコを食べる危険性が常に存在します。夏緑樹林帯では、決まった季節に決まった場所に大量に出現する決まった種類のキノコを多用しています。それにもかかわらず、毎年のようにキノコ中毒がでることは、キノコ食が一種のロシアン・ルーレットであることを如実に示しています。照葉樹林帯では夏緑樹林帯に比べて菌類そのものの種数は格段に多いですが、屋久島ではシイタケとアラゲキクラゲ、加計呂麻島でもシイタケ、アラゲキクラゲ、マツタケ、イグチの一種の4種以上の食茸を聞き出すことはできませんでした。宮崎・椎葉のある集落ではかつてキノコ中毒で大きな被害がでたために、いっさいキノコは食べません。この照葉樹林、さらには亜熱帯、熱帯でもキノコ食が低調である理由が毒キノコの回避であることを、ここでは「キノコ誤食回避説」と名付けておきます。

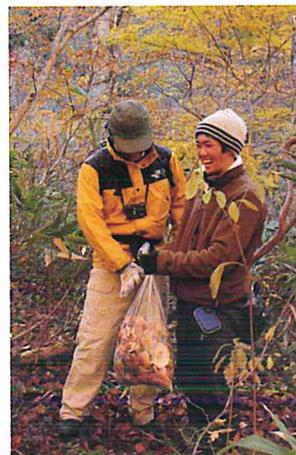


写真3 秋山郷のキノコ採集
秋になるとみんなが森にキノコ狩りにいく



写真4 秋山郷のナメコ
天然物はこんなに大きくなる



写真5 早春の青森・白神山地



写真7 白神山地で採れた山菜

春の山菜採りや秋のキノコ狩りに人々が喜び勇んで森林に入る夏緑樹林と、そうでない照葉樹林では、人々の意識のなかでの森、とりわけ原生的な天然林の価値づけがずいぶん異なるといえるでしょう。このことが古代から近世・近代あるいは現代にいたるまで、一貫して照葉樹林が減り続けてきた背景のひとつであると考えられます。



写真6 白神山地の山菜採り。ミヤマイラクサ（あいこ）

照葉樹林の生物文化多様性と新しい価値

人間文化との関わりの多少にも拘らず、照葉樹林には照葉樹林に特異的な生物の多様性があります。林冠を構成する高木の多くが風媒性であるブナ林と比較すると、シイやマテバシイ、あるいはクスノキ科の樹種はすべて虫媒性です。ヤブツバキは日本の野生植物では数少ない鳥媒性で、ヒヨドリやメジロによって花粉が媒介されています。また果実を動物に食べられて散布される樹種も数多くあります。秋から冬にかけて実る照葉樹林の果実は、食料としての昆虫が少なくなった鳥が食べて、種子を散布します。また初夏に果実をつけるヤマモモやタブノキは鳥類だけでなく、タヌキやニホンザルなどのほ乳類が種子を散布しています。花粉を媒介する昆虫・鳥類や、種子を散布する鳥類・ほ乳類の存在なしでは維持できない森林という点では、照葉樹林は熱帯雨林の雛形ともいえます。照葉樹林の高木や亜高木の種多様性は、動物との相利共生によって支えられているのです。

また照葉樹林には、つる植物、着生植物、腐生植物、寄生植物など、多様な植物の生活型がみられます。キビタキやアカショウビンは森林構造が発達した成熟林に好んで生息するため、照葉樹林だけではなく落葉広葉樹林や針広混交林にも生息しますが、サンコウチョウやヤイロチョウなど照葉樹林に深く結びついた鳥類も存在します。これらの原始的な照葉樹林に特有な生物相は、里山として喧伝されている二次林では、著しく多様性が低下します。この意味で、里山は原生林の代替にはなりません。

生物多様性の喪失が地球環境問題の柱となっている現代では、照葉樹林には森林が供給する物質的な価値だけではなく、生物多様性を保全するという新しい価値がすでに生じています。さまざまな生物が相互に関係しながら生態系を支えているということを照葉樹林から学ぶエコツーリズムは、大きな教育的な価値をもっているといえるでしょう。

照葉樹林を取り戻すには

日本列島の長い歴史のなかで、わたしたちはすでに照葉樹林を伐りすぎてしまっています。西南日本のもともとの植生がどのようなものか、どのような生物間相互作用が生態系を支えてきたのかを考える手掛りは残された照葉樹林ですが、それにしてはあまりにも狭いのが実情です。屋久島の世界自然遺産は、標高による垂直分布が学術的に大きな価値をもつと評価されているにもかかわらず、良好なかたちで保全されている照葉樹林の面積はわずかです。

幸いなことに、照葉樹林を構成する主要な樹種は少しだけ人間が手助けをしてやることによって、植生回復が可能です。ただ従来の立木伐採目的では、とても採算ベースに乗らないほどのコストがかかりそうであることも容易に想像できます。照葉樹林を再生するための新しい文化的・社会的な合意形成をつくり出す必要があります。地球規模の環境問題として、地球温暖化の進行と生物多様性の喪失があげられています。このふたつの課題に対する実効性のある取り組みには、国や自治体、企業にとっても明確な努力目標が必要となっています。この課題克服のために、照葉樹林の再生を明確に位置づけることが急務です。

引用文献

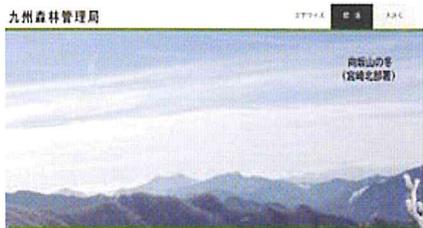
- 石毛直道・ケネス・ラドル著（1990）『魚醬とナレズシの研究』岩波書店。
上山春平編（1969）『照葉樹林文化』中央公論社。
上山春平・中尾佐助・佐々木高明（1976）『続・照葉樹林文化』中央公論社。
市川健夫（1984）『日本のブナ帯文化』朝倉書店。
小山修三（1984）『縄文時代』中央公論社。
佐々木高明（1971）『稲作以前』日本放送出版会。
中尾佐助（1966）『栽培植物と農耕の起源』岩波書店。
湯本貴和（1994）『屋久島』講談社。
(ゆもとたかかず・草津市)

綾の照葉樹林プロジェクトでは、2008年から毎年報告書を作成しています。プロジェクトに参加する5者が、1事業1頁に写真や図表を入れ一般の方が見てもわかるような形で担当事業をまとめ、それを1冊の報告書にしています。

6月の連携会議で1年間の活動が報告され、下記ホームページで公開しています。

- 九州森林管理局HP

URL <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>



- 綾ユネスコエコパークセンターHP

URL <http://ayabrcenter.jp/>



- 一般社団法人てるはの森の会HP

URL <http://teruhanomori.jp/>



また、2020年からは30頁ほどある報告を、A3見開き1枚にまとめた概要版も作っています。

巻末にはプロジェクト関連の著作や論文、投稿をまとめた関連文献一覧や関連新聞記事一覧情報も載っています。どうぞ、一度ご覧ください！

ご意見やご感想をお待ちしています。

ここ数年コロナ感染防止のため開催されていませんが、下記は、2022年度報告の概要版です。

2022

10月～2月

獣害防除作業



県有林造成事業(獣害防除)を行いました

シカ・ウサギの被害からカヤを守るため、塗りに塗って獣害対策を図っています。

山で獣類の食べ物が不足する冬場(10月に2回で、1回目と2回目の散布期間を

10月～12月

どんぐり採取・保存



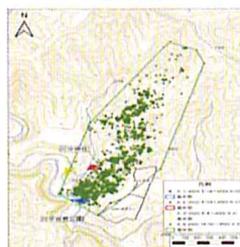
照葉樹林復元に向けたどんぐりの採取

照葉樹林復元のため、間伐予定箇所(2000㎡)の苗木を植栽するため、隣接する204所設置し、どんぐりを採取(イチイガシ、カシ等)を実施しました。種子は宮崎森林ユネスコエコパークセンターで保存し、令和環境教育の一環として、綾小・中学校の生徒を蒔いて、その後、校内敷地において育苗予定箇所に植栽する予定です。

今後、成長量調査などのモニタリングを実施

4月～3月

シカ対策調査



シカ被害対策に係る行動・生息状況把握

人工林から照葉樹林へ復元する取組として、効果検証のモニタリング調査等を実施してき響により復元が進んでいない林分が多いこと域において、シカの捕獲圧を高め、人工林により照葉樹林の復元を目指すことにしている(GPS首輪装着)と生息状況把握調査(定点ラッシュ、効果的なシカ捕獲を図るための基礎資料今後、成長量調査などのモニタリングを実施

2月19日

ボランティア林床調査



調査・研究

ボランティア林床植生調査を実施しました

綾プロエリアにおける自然林の復元状況をボランティアと協働で林床の植生調査を実施の調査と比較すると綾プロエリア内の林床たことが分かりました。

ニホンジカの被害対策が継続的な課題とな

3月2日綾町文化ホールで開かれる公民館大会でも、綾の照葉樹林プロジェクトの報告を行っています。

綾の照葉樹林プロジェクト 活動報告概要版

林の復元

（乾いた匂いの薬剤を幹に散布し、散布は上から行います。）

実施しました(国)

と1林小班)にどんぐりトランプを5箇所に設置し、コジイ、アラビヤ森林事務所と綾町ユネスコパークに5月にかけて、森林の手により、どんぐり2～3年後、当該間伐予定です。

を行いました(国)

で復元の試行とその後、シカの影がなくなり、一定の区画にシカ防護柵の設置とシカの行動把握調査(基礎設置)を実施することにしました。

J & T)

ることを目的に、ボート10年・2015年種数がさらに減少しています。

12月 災害復旧事業 (吊橋遊歩道)



9月～2月 ガイド養成講座



3月11日 地域づくりワーキンググループ



綾ユネスコエコパーク活動



環境教育

綾照葉大吊橋遊歩道の風倒木を撤去しました(県)

照葉大吊橋から伸びる歩道の旧トロッコ道の部分は、九州自然歩道に指定されています。台風14号の影響により多くの風倒木が発生していましたが、利用者が安全で快適に散歩出来るよう、風倒木の撤去を行いました。

綾ユネスコエコパークガイド養成講座を実施しました!(T & 町)

9月～2月まで月1回のガイド養成講座を開催し、16人のガイドが誕生しました。平均年齢40歳代、綾町在住者14名の受講生が集まりました。主な活動場所の綾照葉大吊橋遊歩道が、9月の台風14号により通行止めになったため、急遽川中の森に変更して講座を実施しました。今後綾照葉大吊橋遊歩道での実践活動を重ね、ガイドとしてますますのスキル向上を目指します。

森と共生した地域づくり

「おとなの山学校」モニターツアーを行いました!(T & 町)

綾町上畑自治公民館を中心に進めている「大人の山学校」モニターツアーを開催しました。参加費5,000円、2時間ほどの里山散策の後、昔の猟師飯を味わう里山暮らし体験ツアーです。小高い丘を登り、旧トロッコ道の一部通り、九電の発電所横の綾南川において約2時間のコース。その後、上畑公民館で昔の猟師飯(イノシシカレー、イノシシの焼肉)をいただきました。食事の時には、綾猟友会のテレビ映像も流され、シシ肉のお土産付きという豪華版でした。今後は、改良を重ね、定期的に開催の予定です。

綾ユネスコエコパーク関連の活動を報告します!(町)

綾プロエリアは、綾ユネスコエコパークの核心地域および緩衝地域にあたることから、綾町ではユネスコエコパーク関連の事業と連携しています。ユネスコエコパークに登録された自然生態系豊かな綾のフィールドを活かし、地元小中学校の環境学習や、県内様々な学校からの校外学習(野外実習)や視察を受け入れています。令和4年度の活動実績は241件、うち綾プロ関連は49件でした。
(令和4年度活動実績) ()内は綾の照葉樹林プロジェクト関連の件数です。

- ・視察、外部対応：58件(1件)
- ・綾町主催のイベント：40件(7件)
- ・他者主催の講座など：5件
- ・取材対応：14件
- ・調査、作業：20件(16件)
- ・会議、打合せ：104件(25件)

※国は九州森林管理局・宮崎森林管理署、県は宮崎県、町は綾町、N Jは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会 全は連携会議各機関

「大人の山学校 秋ツアー」を開催しました！

10月21日(土)「おとなの山学校 秋ツアー」に県内外から8名の方が参加してくださいました。

現役猟師さんのガイドで、綾町上畑地区を巡りました。サルやアナグマの糞を見学したり、シカの足跡やテンの糞を見つけたり、アケビの実を収穫したり、地元の方と交流しながら里山を巡りました。

その後、旬の綾野菜や山菜を使った料理、シカ肉のジビエカレー、カシ(ドングリ)の実から作ったコンニャクなど、綾の旬がたっぷり詰まったお料理を召し上がっていただきました。とても好評でした。

食事をしながら、猟に関する動画を見たり、綾の照葉樹林保全の取り組み等について説明したり、参加者の皆さんとざっくばらんにお話したりしました。

次回は1月20日(土)に冬ツアーを開催します。冬は、シシ鍋が出るかも！！

それ以外の日も、ご連絡いただければ好きな日にツアーを組めますので、ご連絡お待ちしております！
(食事付プランは6人以上、ガイドのみプランは4人以上から受け入れます)

事務局 だより



◆ てるはの森の会 関連行事

* 終了した行事 *

- 8月 2日(水) 第2回連絡調整会議
第38回連携会議
- 24日(木) 吊り橋遊歩道ガイド 7人
- 9月 10日(日) 第1回ガイド養成講座 11人
- 21日(木) 地域づくりWG
- 26日(火) 第3回連絡調整会議
- 10月 1日(日) 第2回ガイド養成講座 9人
- 11日(水) げんだぼの森草刈り作業 7人
- 21日(土) 大人の山学校秋ツアー 8人
- 25日(水) 吊り橋ガイド 6人
- 11月 2日(木) 地域づくりWG
- 24日(金) 大人の山学校学生ツアー12人
第4回連絡調整会議
- 25日(土) 吊り橋遊歩道ガイド 12人
- 26日(日) 第1回ボランティア作業
- 12月 10日(日) 川中神社 神梅植樹祭参加
- 13日(水) 第1回環境教育WG
- 15日(金) げんだぼの森草刈り作業 8人

* 今後の予定 * (予告なく変更になる場合があります、ご了承ください。)

- 1月 11日(木) 第2回環境教育WG
- 14日(日) 救急法ガイド研修
- 20日(土) 大人の山学校冬ツアー

◆ 綾照葉大吊橋遊歩道が通れるようになりました

1 昨年9月の台風14号により一部通行止めになっていました吊橋遊歩道は、全線通行できるようになりました。しかし、大雨の影響で土が流され、凹凸のある道となっています。今までのように普通の靴では危ないです。軽登山靴等を準備し健脚な方にお勧めです。

ガイドは滝までの短縮コースか、なだらかな川中コースをご案内します。

詳しくは、当会事務局にご相談ください！

ご寄付いただきました。大切にさせていただきます。

(敬称略 令和5年12月20日まで)

藤本綾子 寺原捷夫 木野田毅 道家哲平
糸永正之 黒木稔 前田章子

会員募集中!

(一社)てるはの森の会では、綾の照葉樹林プロジェクト(綾プロ)にご協力いただける会員を募集しています。会員になっていただくと、照葉樹林や綾プロに関する情報を掲載した「照葉樹林だより」を年3回お届けします。綾プロが実施するイベントや各種行事に参加できます。詳細は事務局までお気軽にお問い合わせください。

年会費

個人会員	2,000円
団体会員	5,000円
法人会員	10,000円